

平成30年3月15日（木）

平成29年度 第4回川崎市地域自立支援協議会全体会議報告資料

## 精神障害者地域移行・地域定着支援部会



### 1 平成29年度 計画書

活動目的	長期にわたり入院している精神障害者の地域生活への移行および定着支援の体制を充実させる。
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 医療・福祉関係機関との支援方法の共有化</li> <li>② ピアサポーターとの共同による地域移行支援</li> <li>③ 地域移行支援のモニタリング体制</li> <li>④ 地域移行支援の見える化（平成28年度実施済み） <ul style="list-style-type: none"> <li>・支援対象者の把握</li> <li>・地域状況の理解</li> </ul> </li> </ul>
長期目標 (H28～H29年度)	支援のすそ野を拡げよう！
短期目標 (H29年度)	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 地域移行・地域定着支援体制の拡充</li> <li>② 人材育成の充実（研修会、事例検討会、バックアップ体制の充実）</li> </ul>

平成29年度 第1回川崎市地域自立支援協議会全体会議資料

## 2 専門部会の開催

- テーマ 課題の絞り込み及び取り組みについて  
(3つのワーキンググループに分かれて検討・実施)
- ★第1回 4月19日(水) 午前 中部リハ会議室  
出席者数 33人(構成員、事務局員他)
  - ★第2回 6月21日(水) 午前 第4庁舎会議室  
出席者数 34人(構成員、事務局員他)
  - ★第3回 8月19日(水) 午前 J A セレサ4階会議室  
出席者数 41人(構成員、事務局員他)
  - ★第4回 10月19日(水) 午前 J A セレサ4階会議室  
出席者数 36人(構成員、事務局員他)
  - ★第5回 12月20日(水) 午前 第4庁舎4階会議室  
出席者数 33人(構成員、事務局員他)
  - ★第6回 2月21日(水) 午前 第4庁舎4階会議室  
出席者数 39人(構成員、事務局員他)

## 3 アンケート調査の実施

### 川崎市における精神障害者地域移行・地域定着支援に関するアンケート調査の実施

平成28年度 地域移行支援数 ⇒ **55人**

地域移行支援による退院者数 ⇒ **18人**

地域定着支援数 ⇒ **14人**

- ★目的 支援件数と課題を把握し、支援の下地作りとする
- ★アンケート依頼先 35ヶ所(相談支援センター 地域生活支援センター等)
- ★対象期間 平成28年度 1年間
- ★アンケート内容 精神障害者地域移行支援数、地域移行支援後の退院者数、地域定着支援数

平成29年度 第3回川崎市地域自立支援協議会全体会議資料

## 4ー ワーキンググループ

	チーム名	取り組み内容
1	連携	地域移行・地域定着支援体制の拡充 ～顔の見える関係づくり～
2	人材育成	人材育成（研修会及び事例検討会、 バックアップ体制の充実）
3	社会資源	居住資源の充実、普及啓発

平成29年度 第1回川崎市地域自立支援協議会全体会議資料

### 4ー(1)連携チーム 地域移行・地域定着支援体制の拡充

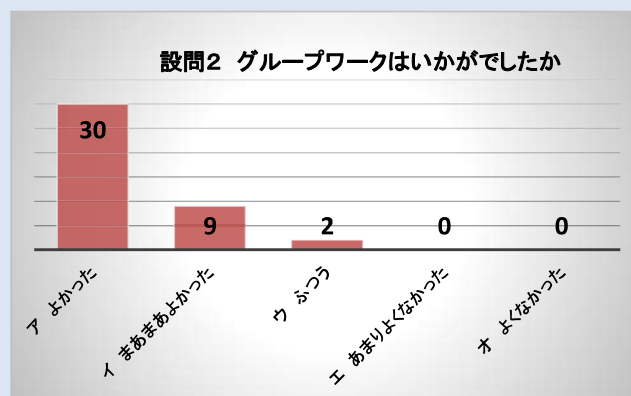
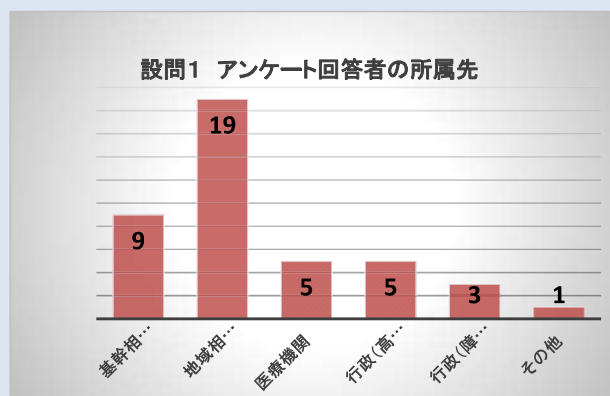
#### ○ 2月9日 合同連絡会の場で意見交換会を開催

- ★ **目的** 病院と地域関係機関の顔の見える関係づくりと役割分担についての意見交換
- ★ **内容** ① 地域移行支援の取り組み紹介 ② 病院ワーカーと地域相談支援者との小グループによる意見交換 ③ グループでの意見を全体で共有

#### ○ 開催結果 全体で62人が参加しました

- ★ **所属** 相談支援センター（基幹7ヶ所、地域14ヶ所）：29人 病院：8人 区障害：4ヶ所 4人 地域リハ：2ヶ所 4人、在宅支援室：1ヶ所 2人等

#### ○ アンケート結果 42人が回答 グループワーク：よかった・まあまあよかったが39人（93%）



## 4－（2）人材育成チーム 研修、バックアップ体制等

地域移行の進め方の周知を目的に……………

### 川崎市版「精神障害者地域移行・地域 定着支援の実際」の作成

★2月9日（金） 合同連絡会の場で概要説明実施

★3月9日（金） 合同連絡会の場で全容の説明

## 4－（3）社会資源チーム 居住資源の充実、普及啓発等

### 3障害圏域で、社会資源見学ツアー（川崎市の社会資源を見る、知る、楽しむハッピーツアー）を開催

- ①対象：今まで精神障害者の支援をしたことのない支援者中心に
- ②内容：精神障害者が地域でどんな社会資源を利用し、どんな暮らしをしているのか、直接見学してもらう
- ③募集：各区自立支援協議会等を通じて周知

#### 開催結果

○南部 1月30日（木） 参加者7人 部会構成員5人

#### 参加者感想

- ・一度に複数の事業所を見学でき、加えて実際にそこで利用されている方の話を聞いて良かった。
- ・当院の患者も時々利用しており、名前は知っていたが、実際の雰囲気、作業内容、利用者の様子が見れてよかった等

○中部 2月7日（水） 参加者5人 部会構成員5人

#### 参加者感想

- ・ピアスタッフの方の話が聞いて良かった
- ・最近の精神障害者支援の様子の一部を知ることができた。等

○北部 2月27日（火） 参加者12人 部会構成員4人

#### 参加者感想

- ・知的・身体と同機能施設とも違う部分があることがよくわかった。
- ・歩いて回れる気軽さが良かった。効率よく複数の場所を知ることができた。今回のツアーを定期開催して欲しい。等

## 5 平成30年度 計画書 (案)

活動目的	長期にわたり入院している精神障害者の地域生活への移行および定着支援の体制を充実させる。
課題	① 医療・福祉関係機関との支援方法の共有化 ② ピアサポーターとの共同による地域移行支援 ③ 地域移行支援のモニタリング体制 ④ 地域移行支援の見える化 ・支援対象者の把握（平成28年度実施済み） ・地域状況の理解（平成27年度分、平成28年度分実施済み）
長期目標 (H30～H32年度)	支援のすそ野を拡げよう！
短期目標 (H30年度)	① 地域移行・地域定着支援の拡充 ～顔の見える関係づくり～ ② 人材育成（研修会及び事例検討会、バックアップ体制の充実） ③ 居住資源の充実、普及啓発 ④ 地域移行支援の見える化 ・支援対象者の把握 ・地域状況の理解（平成29年度分）

## 6 H30年度 目標達成に向けた専門部会活動(案)

### ★ 開催日数 年6回

### ★ 構成メンバー、オブザーバー

- 当事者（ピアサポーター）
- 障害者センター（井田・百合丘）、南部地域支援室
- 医療機関（対象6精神科病院）
- 生活保護・自立支援室
- 各区相談支援センター（代表）
- グループホーム（代表）
- 保健福祉センター（精神担当7区代表）
- 宿泊型自立訓練施設桜の風もみの木ユニット
- 地域生活支援センター
- 就労継続支援B型事業所
- 精神保健課
- 精神保健福祉センター

### ★取り組み内容

- 3つのワーキンググループの設置等により、下記の3項目に取り組む
  - 1 地域移行・地域定着支援体制の拡充 — 顔の見える関係づくり
  - 2 人材育成（研修会及び事例検討会、バックアップ体制の充実）
  - 3 居住資源の充実、普及啓発
- 地域移行支援の見える化

## 6 H29年度川崎市地域自立支援協議会 「精神障害者地域移行・地域定着支援部会」構成委員 No.1

部会長：七井 貴洋（地域相談支援センター かわさきLife）

	構成機関	機関名	氏名
1	当事者代表者	百合丘地域生活支援センターゆりあす	小暮 勝
2		就労継続支援B型事業所レジネス	齋藤 英輔
3			高木 良
4			井田地域生活支援センターはるかぜ
5	医療機関	東横恵愛病院(総合医療連携部)	西郡江里子
6		生田病院(地域連携室)	加藤 昌代
7		鶴が丘ガーデンホスピタル(相談室)	石井 一輝
8	区相談支援センター (代表)	地域相談支援センターかわさきLife(川崎区)	七井 貴洋
9		地域相談支援センターあんさんぶる(幸区)	宮本 正教
10		地域相談支援センターすまいる(中原区)	大杉 美保
11		地域相談支援センター ゆきやなぎ(高津区)	田子 洋平
12		地域相談支援センター れもん(宮前区)	内海 淳子
13		地域相談支援センター アベク(多摩区)	田澤 孝子
14		地域相談支援センター ひまわり(麻生区)	安藤佑香里
15	地域活動支援センター	百合丘地域生活支援センター ゆりあす	鶴田 裕
16	就労継続支援B型事業所	レジネス、アンテナショップるびあ	齋藤 剛
17	グループホーム代表者	ホーム青和荘	光本 一郎
18		みかんハウス	藤井恵美子

## 6 H29年度川崎市地域自立支援協議会 「精神障害者地域移行・地域定着支援部会」構成委員 No.2

	構成機関	機関名	氏名
19	障害者支援施設	桜の風 もみの木ユニット	小林 勇
20	区保健福祉センター(代表)	宮前区保健福祉センター高齢・障害課	徳永 智大
21	地域リハビリセンター	南部地域支援室	谷川美佐子
22		井田障害者センター	鶴見 亜呂
23		百合丘障害者センター	小野 佐和
24	生活保護・自立支援室	生活保護・自立支援室	根岸 友絵
25	アドバイザー	精神保健課	右田 佳子
26		精神保健福祉センター	竹島 正
27	事務局	なかはら基幹相談支援センター	東條みゆき
28		たかつ基幹相談支援センター	中里 友
29		栗田病院(医療相談室)	久保美和子
30		ハートフル川崎病院(医療相談室)	佐藤 純子
31		武田病院(地域医療連携室)	増田 康次
32		井田地域生活支援センターはるかぜ	田中美砂子
33			棚次真理子
34		精神保健課	山田 敦
35		精神保健福祉センター企画調整係	鈴木 剛
36			上野 康夫
37		生活保護・自立支援室	清水麻美子

# 平成29年度 川崎市地域自立支援協議会 人材育成部会



平成30年3月15日(木)  
第4回川崎市地域自立支援協議会全体会議

## 人材育成部会立ち上げの経緯

### ◎相談支援における人材育成から見えた課題

- 川崎市における相談支援従事者のキャリアパスは示されたが、初任者研修、現任研修修了者等、階層別に求められる相談支援従事者としての役割や能力について示されていない。
- 相談支援従事者がブラッシュアップする機会が自己研鑽に限られており、川崎市として相談支援従事者に必要と考える、実務に必要な研修や専門分野に特化した研修を受ける場が少ない。

(県の人材育成ビジョン、私たちが目指すべき相談支援従事者像に基づく研修が不明確)



相談支援の質の向上や人材育成は、川崎市全体の課題である。  
国の動向を踏まえつつ、相談支援の質の向上に向けた人材育成が必要。

**人材育成部会の設置が必要**

## 人材育成部会目標

### ○相談支援従事者の質の向上・確保を目指す

国の動向に留意しつつ、川崎市における相談支援従事者の人材育成のあり方や基本的な方向性を検討する。

### ○川崎市で求める相談支援従事者像を具体化する

相談支援従事者がどの段階（経験年数）でどのような知識や技術を身に付ける事が必要なのかを明らかにする。



## 取り組み内容①

### 第1回（10月27日）

- ・ 人材育成部会発足に至る経緯
- ・ 部会設置目的、課題及び取り組み内容の確認

⇒ **課題、取組内容について共通認識を図る（方向性の確認、共有化）**

- ・ 相談支援の質に関する現状把握

以下、資料①②を参考にし、川崎市の相談支援の現状を把握し、必要な情報の整理を行う  
(新たなアンケート、ヒアリングの必要性検討)

#### ①相談支援事業に係る質の評価実施シート

(平成27年度 川崎市地域自立支援協議会相談支援部会にて作成)

#### ②平成28年度 相談支援専門員の業務等の実態に関する調査結果報告書

(神奈川県障害者自立支援協議会研修企画部会)







## 取り組み内容④

### 第4回（2月20日）

#### ・平成30年度 相談支援従事者プレ研修内容検討（前回続き）

##### 対象者

⇒初任者研修受講者（県案）を優先とするが、障害福祉に関わる人・関わり始めた人も対象

##### 研修目的

⇒基本的な相談支援に関する知識や技法、相談支援に必要となる職業倫理や価値等について学ぶ（県案）に加え、相談支援従事者になりたい、やってみたい等、興味が持てるよう、すそ野を広げる。

##### 研修科目、科目別獲得目標、内容、時間数

⇒『理念・知識・技術』の項目ごとに設定



### 第5回（3月23日） 予定

#### ・川崎市で求める相談支援従事者像の具体化（前々回続き）

川崎市における相談支援従事者キャリアパスを検討。

## 今後の取り組み

### 川崎市における相談支援従事者キャリアパスの検討・確定



キャリアパスを  
実行していくための計画として

### 川崎市における相談支援従事者キャリアパスに基づくシラバス作成



平成29年度 川崎市地域自立支援協議会人材育成部会委員名簿

○委員

	所 属・職 名	所属法人	氏名
1	北部リハビリテーションセンター百合丘障害者センター 在宅支援室長	社会福祉法人 川崎市社会福祉事業団	安保 博史
2	川崎市健康福祉局障害保健福祉部 障害者更生相談所 南部地域支援室	川崎市	原島 淳
3	川崎市健康福祉局 障害保健福祉部障害計画課	川崎市	横地 厚
4	地域相談支援センターふじみ	社会福祉法人 川崎市社会福祉事業団	中里 光宏
5	地域相談支援センターあんさんぶる	社会福祉法人 幸ヒューマンネットワーク	吉澤 美香
6	北部地域療育センター	社会福祉法人 同愛会	三浦 靖子
7	生活支援ステーションあんど	特定非営利活動法人 ピアたちばな	高松 信

順不同

○アドバイザー

	所 属・職 名	所属法人	氏名
1	神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部准教授 川崎市地域自立支援協議会会長		行實 志都子



# 相談支援部会

平成30年3月15日（木）

川崎市地域自立支援協議会 第4回全体会議

## 部会設置の背景と目的



### 1. 設置に至った背景

- 相談支援に関する以下の課題が明確になった。
- ・ライフステージの変化（児童期から成人期、成人期から介護保険への移行）で支援が途切れたり、支援体制が変わることで混乱を招くことがある。
- ・セルフプランの数が多く、指定特定相談支援事業所が少ない。計画相談支援の拡大に向けた課題の整理が必要である。
- ・計画相談支援の意義及び目的が浸透しておらず、メリットが伝わっていない。
- ・相談支援ガイドブックの改訂が必要である。・・・など



計画相談支援の拡大に加え、相談支援に関する課題が多岐に渡っていることを踏まえ、相談支援の充実に向けて取り組む必要がある。

## 相談支援部会設置の背景と目的



### 2. 相談支援部会の目的（平成28年度策定）

これまでの取り組み経過、川崎市の状況（地域包括ケアの推進等）及び国の動向（研修の見直しや「地域共生社会」の実現）等を踏まえ、市単位の取り組みとしての優先度が高いと考えられる計画相談支援の拡大、相談支援ガイドブックの改定及びその他各種課題に関する検討を行うことで相談支援の量的な拡大を図り、相談支援の充実に資することを目的とする。

## 平成29年度 開催日程



- 第1回 平成29年10月2日
  - ・現状の課題確認  
（次項 意見抜粋-1, 意見抜粋-2 参照）
- 第2回 平成29年11月20日
  - ・目指すべき相談支援体制について事務局案を提示  
⇒事務局案の修正に向け、課題を整理していく。
- 第3回 平成29年12月11日
  - ・事例検討（指定特定相談支援事業所へのケース移管について）  
⇒計画相談支援の拡大に向け、事例をもとに引継ぎが出来るポイントの整理。「安定」の共通認識を整理。



## 第1回相談支援部会 意見抜粋－1（再掲）

- ・相談支援事業の報酬だけでは事業が成り立たないので、他事業と兼務せざるを得ない。
- ・指定特定事業所との交流会を行ったが、事業所側からは「他の事業も行わないと成り立たないので指定を受けるメリットが無い。」との話が出ていた。
- ・サービス等利用計画は、その人に本当に必要なサービスは何か、どのような生活環境なのか等、ある程度理解した上で作成するものなので、時間を要するため兼務で行うことは厳しい。
- ・計画書作成の方法がわからない、サービス等利用調整会議にかける基準がわからないといった話も聞くので、作成しやすい環境ベースを整える必要があるのでは。
- ・指定特定事業所への引継ぎをスムーズにするためには、どのようなフォローアップ体制があれば良いのか、考える必要がある。
- ・誰が計画書作成担当なのかというよりも、関係者全体で支えていく姿勢が必要。



## 第1回相談支援部会 意見抜粋－2（再掲）

- ・引き継いだケースの進捗状況の確認を随時行うなどのバックアップ体制も重要。
- ・児童の計画相談支援ができる事業所が少ない。
- ・委託の相談支援事業所がサービス等利用計画書の作成に追われている。
- ・現在の川崎の相談支援体制全体を見直す時期に来ているのではないか。
- ・計画相談のどの部分が進んでいないのか、進まない理由は何か、進めるためにはどのような仕組み作りが必要か、検討できるとよい。
- ・計画相談支援を増やすためには、質と量の双方から考えることが必要。
- ・指定特定事業所数はある程度あるが、計画相談を受けていないのか、を受けていない理由は何か、事業所数もあって、計画相談も受けているのに、数が足りていないのか、数的な視点からも、今の川崎市の現状を知ることが必要。
- ・横浜市では、29年度からモニタリングの頻度を6か月に1回から3か月に1回に増やした。（報酬は1ケースにつき1年間でモニタリング3回と計画相談1回で合計約60000円になり、現在の約2倍となる）


## 平成29年度 開催日程



- 第4回 平成30年1月15日
  - ・グループワーク
  - ⇒「理想の相談支援体制とは」をテーマに部会内でグループワークを実施。理想の共有化を図る
- 第5回 平成30年2月5日
  - ・グループワーク
  - ⇒第4回に引き続き、「理想の相談支援体制とは」をテーマにグループワークを実施。
- 第6回 平成30年3月5日
  - ・今年度の振り返り。理想の相談支援体制を整理。
  - ⇒次年度から具体化に向け協議・検討していく。

## 部会の取り組み



- 理想の相談支援体制として  
「いつでも誰でも相談できる体制」  
「何でも相談できる窓口」  **が 必要！！**
- 理想の相談支援体制について協議を重ねた結果、「いつでも相談できる体制」と「何でも相談できる窓口」が必要であることを確認。  
川崎市における障害者相談のあるべき姿を見据えて、現実とのギャップを埋める取組みを具体化できるよう協議していきます。



## 今後の予定



平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
川崎市における理想の相談支援体制について検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「いつでも誰でも相談できる体制」「何でも相談できる窓口」の具体化</li> <li>・取組み課題の順位付け</li> <li>・相談支援体制のフローチャート作成</li> </ul>	新相談支援体制案確定	新体制移行に向けた準備



## 平成29年度 相談支援部会 委員名簿

- 部会長 : 小林しのぶ (地域相談支援センターりぼん)  
 副部会長 : 角山正敏 (地域相談支援センター柿生)  
 委員 : 西巻奈美 (ほっとライン)  
         藤田千鶴 (地域相談支援センターにじ)  
         北川潤 (高次脳機能障害地域活動支援センター)  
         安井智美 (地域相談支援センターシリウス)  
         加藤主力 (地域相談支援センタードルチェ)  
         野木岳 (障害者更生相談所南部地域支援室)  
 事務局 : 坂本利枝 (かわさき基幹相談支援センター)  
         牧田奈保子 (たま基幹相談支援センター)  
         鷺見卓也 (障害計画課)  
         横地厚 (障害計画課)  
         河合顕宏 (障害者更生相談所南部地域支援室)  
         角野孝一 (地域包括ケア推進室)  
         遠藤恵 (地域包括ケア推進室)  
 アドバイザー : 行實志津子 (川崎市地域自立支援協議会会長)



